

2026

6.1

Mon.

第一回 教育研究部研修

(研修まとめ：大迫先生)

◎今年度の目標

対話交流の質を高める

◎今日の研修の目標

算数科における読解力や対話を意識した明日からの授業プランを決める。

◎そもそも課題解決型授業とは

(全教員の共通認識が大事。)

課題とはめあてや問いのことで、これを解決するのが課題解決型学習。文章問題等を課題とし、それを解いていくのが課題解決と思っている方も多いかもしれないが、文章問題等は、その解決のために使う教材。授業をしていて、いきなり課題は子どもから出てこない。

教材を見て、思いつく。なんか困るな、違うな、というところから出てくる。

①文章問題や活動。②一かなという問い。疑問系の課題として設定する。

ちなみに、世界共通のきまり→定義という。

? のことを課題とするのかは教科によるかもなので、要検討。

○課題設定のときのポイント

どんなことを解決したい？あなたのはてなは？と問いかける。

導入部分に人との対話も、自分との対話もいれる。

◎対話について

- ・人との対話
- ・自分自身との対話

人と対話するにはまず自分自身との対話が必要。短い時間でも。導入部分でも。

- ・課題との対話

問いに対して答えを導く。

具体的な条件を絞ってから対話することが必要。

どの対話を重視するか。それぞれの時間で検討する。

◎授業の流れ

- ・導入

子どもたちが文章問題に取り組み、未習に気づき、それを疑問系の課題として設定する。

- ・展開

議論しながら解決する。

- ・学力向上 おはなしづくりは？がない。問題づくりは？がある。



講師：大阪教育大学
木村憲太郎先生



◎読解力

・文章問題を読解する力

読解力は式を読解することも入る。問題をブロック操作してブロックから式にしたり、図にしてから式にしたり。図がかけてこそ本当の力。教科書の理想の図を教師は知っておくべき。

・式や図を読解する力

文章問題ではなく、図を提示して、問題や式を考えるのも良い方法。

・友だちの意見を読解する力

これも時間によってどれを重視するか検討する。焦点を絞る。

◎学習指導案では本事の目標が2つあるべき

一つは指導書通りの目標。もう一つは校内研究の視点で。

◎まとめという言葉は不適切という見方もあり、課題の答えや、発見という教科書会社も。まとめとふりかえりはまた違う。

◎言葉を大事に

・考えが広がる

知らなかったことを知る。

・考えが深まる

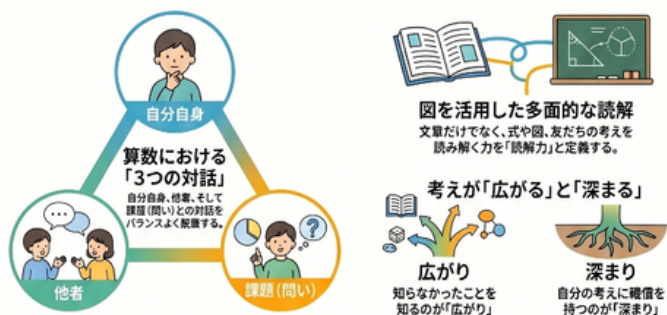
自分の考えを整理し、確信や自信を持つ。

用語の意味を曖昧にせず、自分の中でもってから挑む。

算数科で「対話」と「読解力」を育む： 課題解決型授業のガイドライン

算数科の授業において、児童の対話の質と読解力を高めるための「課題解決型授業」の具体的な構成と視点を提示する。

思考を深める「読解」と「対話」の定義



算数における「読解」の対象と 教師が意識すべきポイント

読解の対象	教師が意識すべきポイント
文章問題	ブロック操作や図に置き換えて理解できているか
式や図	図を提示して、そこから問題や式を考えられるか
友達の意見	焦点(どの対話を重視するか)を絞って聞き取れているか

課題解決型授業の展開ステップ

導入：未習事項を「疑問系の課題」に

教材や活動を通じて「困り感」を引き出し、「～かな？」という問いを設定する。

展開：図を介した議論と解決

既習事項を活かし、図や式を相互に読解しながら解決のプロセスを共有する。



まとめ：課題に対する「答え」の導出

単なる活動の要約ではなく、設定した問い(課題)に対する結論を明確にする。